

平成24年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1474200183	事業の開始年月日	平成12年10月1日
		指定年月日	平成12年10月1日
法人名	NPO法人介護グリーンハウス えがお		
事業所名	グループホームグリーンハウス		
所在地	(234-0433) 神奈川県海老名市河原口1丁目10番10号		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	9名
		ユニット数	1 ユニット
自己評価作成日	平成25年2月1日	評価結果 市町村受理日	平成25年5月16日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.rakuraku.or.jp/kaigo/w10/wpjDetails.aspx?JGNO=ST1474200183&SVCD=320&THNO=14215
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは、小田急線及びJR相模線の厚木駅から徒歩で5分ほどの相模川河川敷を望む散歩道沿いにあり、広い庭のある家でいろいろな季節の楽しみが感じられます。春はお花が咲き乱れ、秋には大切に育てたお芋が豊作で、お芋ほりを楽しみました。食事は支度から利用者に参加して貰い、料理する楽しさと食事の楽しさを感じていただいています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 湘南リハウスビル4階		
訪問調査日	平成25年3月4日	評価機関 評価決定日	平成25年4月27日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

グループホームグリーンハウスは、小田急線またはJR相模線の厚木駅から徒歩約5分の住宅街の中にあります。近くには商店などの施設があり、散歩や買い物がしやすい環境にあります。建物は普通の民家を改築しているため、落ち着いたたたずまいです。

<優れている点>

利用者を2グループに分けて訪問医療をうけています。その結果、毎週1回訪問医の診察が受けられます。協力医療機関は当番医がいる24時間オンコール体制を取っています。いつでも対応することができ、緊急の時は当直医の指示に従っています。

地域の自治会に加入し、自治会館で開催される「ふれあい祭り」に参加しています。利用者はステンドグラスや壁飾りを出展しています。市民音楽祭には利用者全員が笑顔で合唱参加しています。事業所庭でのバザーにも地域の方が衣類などを寄贈したり参加し地域交流をしています。

<工夫点>

利用料をあえて現金払いにして家族と直の交流を図っています。「クリスマス会」の後に家族会を持つなどして利用者、家族の意見を聞いています。防犯のための助成金を市に申請したら良いという意見があり、皆で検討し要請した結果、自動火災通報装置の設置をしています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホームグリーンハウス
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関や事務所の職員の目につきやすい場所に「運営理念」を掲示しています。毎月の全体会議では、理念の内容及び個々の具体的なケアについて話し合い、意見の統一を図っています。	理念「人権の尊重、各人が役目を持つこと、家庭的な雰囲気」は開設以来のものです。「利用者の明るい笑顔こそ最高の良薬」のモットーを実現するために全体会議などで利用者について話し合い、外部研修で介護技術などの習得に努めています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会主催の展覧会に利用者の手作りの作品を出品したり、地域の皆様の協力を得て、お祭りにも参加しています。今回初めて「グリーンハウス祭り」を行い、近隣の方々にチラシを持って挨拶に伺い、沢山の方の参加をいただきました。	自治会に加入し、自治会館で開催される「ふれあい祭り」に、利用者はステンドグラスや壁飾りを出展しています。市民音楽祭には利用者全員が笑顔で合唱参加しています。事業所庭でのバザーには地域の方が衣類などを寄贈したり参加してくれています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年2回「グリーンハウス便り」を発行し、自治会館や民生委員さんに配布して、「介護相談」を明記し近隣の方々が気軽にいつでも相談できる体制をとっています。又、見学の希望者も増えてきています。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	理念・行事・防災等の取り組みを報告しています。前回の課題でした「近隣の方々とのふれあいの場」としてバザーを開催しました。民生委員さんに庭の清掃や、近隣への声掛けなどの協力していただき、盛大に開催することができました。	開催実績は年間1回です。議題は防災訓練報告や行事報告を行っています。運営推進会議メンバーの民生・児童委員が地域に声をかけて、7月、12月に庭の清掃に来てくれています。バザーの開催などはこの会議の意見交換から生まれています。	会議での話し合いをサービス向上に活かすために、今後、行事のあとに会議を開催するなどの工夫し、開催回数を増やすことも期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市民音楽祭（市主催）に入居者全員で参加しました。認知症の高齢者であっても、歌う喜びや、楽しく生活していることをみなさんに見ていただきました。「研修案内」や「防災関係」については市の担当者から情報をいただいています。	海老名市高齢課より認知症ケア、介護保険の改正点、処遇改善、防災訓練などに関する情報を得ています。生活保護受給者には月に1回、あんしんセンターの方が保護費を持ってきてくれます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月1回のミーティングで身体拘束について話し合いを持っています。玄関は通りに面しているため外部からの侵入を防ぐ為に施錠しておりますが、各居室は施錠していません。外出を希望する方には、付き添うようにしてお買い物の援助などを行っております。	不審者対応ために玄関外側からは施錠していますが、内側からは出られません。外に出たい方については見守りとともに、一緒に買い物に出かけたりしています。言葉の拘束については、常々ミーティングなどで注意しています。	グループホームは家庭的ではあるが家族ではないと管理者は職員に話しています。身体拘束に関する研修を重ね、禁止用語の徹底などさらに理解を深められることが期待されます。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「高齢者虐待を考える」の中の事例集を参考にして、小さな虐待も見逃さないように、ミーティング等で報告しあうようにしています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について研修を受けています。金銭管理できない方に対しては社会福祉協議会の中の安心センターに管理の依頼をしており、月1度の訪問を受けています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には事業所のケアに関する考え方や取り組みに関して、説明を行っています。重度化や医療連携体制の実態などについては、詳しく説明し、同意を得るようにしています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や、敬老会・クリスマス会などの行事に家族にも参加していただき、普段から意見をしやすい環境作りをしています。常時、家族、知人の訪問を歓迎し、なじみやすい雰囲気づくりに努めています。	利用料を現金払いにして家族との交流を図っています。クリスマス会の後に家族会を持つなど利用者、家族の意見を聞いています。防犯のための助成金を市に依頼した方が良くと意見があり、検討し要請した結果、自動火災通報装置を設置しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングで、毎回、意見交換し、運営に反映するようにしています。管理者が常に現場におり、コミュニケーションを図りながら相談や提案を出しやすい環境になっています。	職員が高齢になってきたこともあり、介護への工夫が求められるようになってきています。管理者自ら現場で支援に入ったり、ヒヤリハット事例について職員の意見を聞き皆で話し合うようにしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	普段から職員の意見を取り入れ、運営に反映させるなどして向上心を持てるようにつとめています。又、個々の意見を吸い上げて、働きやすい環境作りに努めています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県主催の研修に交代で参加し、研修後はミーティングで報告するようにして2次研修を行っています。新入職員にも研修の受講を勧め、実務の指導も丁寧に行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	近隣地域のグループホーム協議会に所属し、相互研修など、交流をはかっています。月に1度、同系列のホームで利用者・職員も含めて、交流会を実施しています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で今までの生活歴などを基に、本人の心身の状態や本人の思いに付き合い、要望等を聞き出し、不安をいだかせないように、職員が本人に受け入れられるように努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が困っていることや不安に思っていることを丁寧に聞き、事業所としてどのような対応ができるかを話し合っています。いつでも相談して頂ける様にしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用開始時に家族に状況や要望等をアンケート形式で回答してもらい、それをもとに適切なサービスのあり方について家族も含めて検討しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活の場として各人が掃除、洗濯干し、料理の手伝い等自分でできる役割を持ち、相互関係を築いています。洗濯物は各自で丁寧にシワを伸ばしてたたんでいます。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の訪問や外出などを盛んにして頂き、普段から家族との連携を大切にしています。訪問の際は自室でお茶やお菓子を食べながら、家にいるよう雰囲気づくりを心がけています。ホームの行事にも積極的に参加して頂くようお願いしております。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣から入所された利用者の顔見知りの方々に、散歩のときやお祭りなどでよく声をかけられます。グリーンハウスにも気軽に遊びに来てくださるようにお誘いして、交流が途切れないようにしています。	趣味の教室に通っている利用者の仲間や、付き合いが広がった方の知り合いや、友人が訪ねてきています。河原に出て以前から可愛がっていた犬と遊ぶ利用者もいます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	午前中は歌やゲーム・体操等をして声を出したり、身体を動かすようにしています。又、午後は個々の自由な時間を尊重しながらも、テレビを見たり、談話をしたりして、孤立することがないように努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族からの相談等があった場合は、いつでも応じて、支援するようにしています。各機関との連携も密に行っています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の何気ないつぶやきを聞き漏らすことがないように、細心の注意をはらい、意向や希望を聞き出して出来る限り、沿うようにしています。家族にもその旨を伝え、本人本位に検討するようにしています。	利用者が繰り返し語る言葉の背景を職員同士で話し合い、共有化していません。意向の把握が難しい方には食事会のメニューなどでは、職員がいくつか提案し、どれにするか選択してもらう工夫をしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始時に本人、家族等にこれまでの暮らし方、趣味などを、丁寧にお聞きして、職員間で共有することにより、新しい生活にスムーズに入っているようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	話し合いを大切にして、日々の様子、変化などについて、時間帯別に日誌に記録し、職員全員が把握出来るようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個人記録から、問題点や状態の変化などを見つけ出し、ミーティング等で職員の意見等も取り入れ、検討しています。家族にも報告し、思いや意見を聞きながら介護計画を作成しています。	月一回のミーティングで話し合った内容を検討した上、医師、看護師の意見を聞いて介護計画を作成しています。3ヶ月、6ヶ月～8ヶ月毎に見直しています。状況によっては毎月見直しをしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に記録し、職員間で情報を共有しています。その記録を基に介護計画の見直し、評価を行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体調の変化等で、予定日以外の通院など、緊急を必要とする場合などには、家族と連携をとりながら、臨機応変に対応しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市社会福祉協議会にボランティアを依頼し、買い物や話相手をしていただいています。民生委員さん12～13人で庭の草取りをしたり、利用者とは話しを楽しんだりしています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回往診を依頼しています。体調の変化があった場合は、24時間電話相談ができ、必要な場合には往診してもらっています。希望があれば家族も一緒に相談して頂きます。年1度の健康診断は当施設で（機器持ち込みで）行っています。	協力医をかかりつけ医として2グループに分けて訪問診療を受けています。その結果毎週訪問医の診察があります。協力医療機関は当番医がいる24時間オンコール体制を取っておりいつでも対応が可能で、いざという時は当直医の指示に従っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携をとっており、週1度 看護師の訪問を受け、健康管理を依頼しています。職員も不安に思うことを相談し、指導を受けることができます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	骨折等で入院した場合は、早い時期に、職員が見舞うようにして、ダメージを極力防ぐ為、医師や家族と話し合いながら、できるだけ早く退院できるように支援しています。退院後も、スムーズな連携がとれるようにしています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	身体機能の重度化してきている場合など、家族へ報告し、本人に会って、様子を見て頂くようにしています。医療機関とも連携をとりながら、事業所で出来る対応の仕方を全職員で共有していきます。	契約時に高齢者の心身状況における変化と様態悪化時の事業所の対応について説明しています。重度化した場合には家族、主治医と話し合い、事業所として対応できること、できないことの理解に努めています。現在まで看取り事例はありません。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力を得て「救急救命法」や「のど詰り」の学習や訓練を行っています。事故、急病が発生した場合のマニュアルを作成し、職員間で確認出来るようにしています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年数回、ホーム内で避難訓練や通報訓練を実施しています。常時 避難場所のマップは目のつきやすい場所に掲示しています。災害時の避難場所などは、自治会館等に、常に確認をしています。	運営推進会議メンバーも参加して、避難訓練は年に6回、その内3回は消防訓練を実施しています。まずベランダに避難すること、外階段を使って滑り台方式で建物外に出ることを家主との意見調整も含め検討しています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人・一人の発する言葉を大切に受け止め、共感し誇りを傷つけないように心がけています。外部との情報連携の際には、守秘義務について十分に理解し、責任ある取り扱いをしています。	運営理念に人権の尊重を掲げています。今年度は個人情報保護について研修を行っています。人権についての研修も実施予定です。管理者は、職員の言葉遣いが気になる時にはそっと注意したりミーティング時に繰り返し伝えたりしています。	人権の尊重と家庭的な雰囲気という二つの理念を実践するため、今後も研修と実践を繰り返し、これまで以上に理念の定着に取り組まれることを期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの状態に合わせて、会話の回数を多くしたり、コミュニケーションをとりながら、本人の希望などを、最優先するようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ゲームや散歩などの参加は自由であり、本人の希望を取り入れ、自分のペースで過ごして頂けるようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時の服選びやお化粧品などを楽しめる方もいて、職員もそれを支援しています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の支度は簡単な刻みや盛りつけを一緒に行い、食事前に「本日のメニュー」を発表しています。食後は出来る方は、自分の食器洗いをして頂いています。自分の前のテーブル拭きは各自で行います。	月に一度外食に行っています。回転ずし、しゃぶしゃぶ、ファミリーレストラン等で利用者一人ひとりが食べたいものを注文しています。職員も全員参加で利用者と1対1の対応を行い、外食を楽しんでいます。庭で弁当を広げ食べる時もあります。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分共に摂取量を記録して状況を把握出来るようにしています。栄養バランスについては、栄養士の作成した献立のもと、新鮮な食材を使用しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、声かけして歯磨きをしています。入れ歯は寝る前にはずして入れ歯洗浄剤を使用して洗浄しています。週1回の口腔ケアを受けています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	各自の排泄パターンを記録にとり時間を見ながらトイレ誘導して、トイレでの排泄を促すようにしています。本人のプライドを大切にしながら、援助するようにしております。	半数の利用者は自立しています。排泄パターンを記録にとり、一応の目安をつけながら、利用者の様子、仕草を見てトイレ誘導を行い、排泄の自立支援に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や散歩等を行い、便秘になりにくいように工夫しています。また、朝食にバナナや牛乳などを取り入れています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は本人の希望を取り入れて、公平になるように順番を決め、計画に沿って行っています。体調不良で入浴が困難な場合は、足浴や清拭をして、清潔を保つようにしています。	週2回の入浴を基本としています。1日3人の利用者が順番に入浴していますが、体調不良の場合は翌日にしたり、外出予定がある場合はその前日に入るなど臨機応変に対応しています。強い入浴拒否のある場合は家族の声掛けなどの協力もあります。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温の調節など、一人一人の要望に沿って対応しながら、安心して入眠出来るように支援しています。シーツは常に清潔にして、布団干しも行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を個人別にファイルして、最新の情報が一覧できるようにしています。変更が生じた場合には日誌に記録し全職員が周知できるようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ゲーム進行や日々の予定表の読み上げなどの役割分担を決め、日常生活の支援に取り組んでいます。地域の行事参加等は利用者と相談しながら、楽しんでいます。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に散歩に出かけたり、月に1回外食に行くことも楽しみにしています。スタンドグラス教室に通う方もいて、送迎の援助もしています。教室は地域の情報交換の場であり、展示会等にみんなで出かけることもあります。	天候の良い日には原則として毎日散歩に出かけています。近くの寺まで出かけた時には石段で歌を歌うこともあります。また、利用者の希望により散歩の途中でお菓子などの買物に寄ることもあります。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	各人が自由に使えるお金と小遣い帳をおき、外出して買い物をする際は本人に財布を持ってもらい、支払いをして頂くよう支援しています。バザー等でも楽しそうに買い物をしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は、本人から要請があれば、できるだけかけられるようにしています。毎年、手書きの年賀状を職員が支援しながら、家族に出しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節が感じられる様な作品作りをして、居間や廊下に展示しています。行事や家族と一緒に写真なども展示しています。玄関には庭に咲いたお花を飾っています。	リビングは2階にあり、日当たり、見晴らしが良く開放感があります。壁際には大きなソファを配置し、利用者は座ったり仮眠をとったりとゆったりくつろいでいます。庭には花壇を作り四季の花を楽しんでいます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日当たりの良いリビングにソファを置き、団欒の場所にしたり、広いベランダに椅子とテーブルを置いてゆっくりとくつろげるようにしています。歌の好きな利用者には懐かしい音楽をかけて、一緒に歌っています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談しながら、なじみの家具や家族写真などを各居室に置いています。又、仏壇などの本人のこだわりのある物も置いてあります。好きな歌手のポスター等も貼ってあり、家に居るような雰囲気作りをしています。	2世帯住宅を改装しています。畳の部屋、フローリングの部屋、縁側がある部屋、庭や山が見える部屋とタイプが色々あります。室内には利用者のこだわりの家具、仏壇などが置かれています。整理整頓され心地よく過ごせるようになっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	階段昇降が不自由な方のために階段昇降機をつけて安全に昇降できるようにしています。階段やトイレ、廊下には移動しやすいように手すりをつけて安全に歩行できるようにしています。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	36	運営理念である『家庭的雰囲気』を大切にしているが、しかし「家族」ではないので、個々の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損なわないように日常会話等に気をつけていきたい。	ご利用者が『尊厳をもって』、『安心して個々に合った介護を受けられるように』支援していく。	各人の病気、身体機能の特徴をよく理解して、良いところを伸ばすように、礼節をもって、丁寧に対応する。認知症ケアについて全体会議で繰り返し研修し、『その人に合った介護』を行うようにする。	6ヶ月
2	35	防災対策 地域との協力体制をさらに強化していきたい。	火災や地震等の災害時に安全に避難出来るように、市や消防署などの指導を受けながら、訓練を重ね地域の方々に協力を依頼して、連携を取っていきたい。	地域の行事等に積極的に参加すると共に、バザー等を開催してグループホームを理解していただき、開かれたホームにして、災害時、緊急時には協力を依頼できる関係作りをしていきたい。	6ヶ月
3					
4					
5					

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。